

古瀬教授と行く 広島歴史探訪フィールドワーク

遺跡の小宇宙 三次

テキスト

(主な参考文献)

●史跡 矢谷古墳

白石太一郎・春成秀爾・杉山晋作・奥田尚 「箸墓古墳の再検討」『国立歴史民俗博物館研究報告』第3集 1984所収
桑原隆博 「四隅突出型方形墓覚書(1)-備後北部を中心として-」 芸備友の会『芸備』第17集 1986所収
講談社 『古代史復元6 「古墳時代の王と民衆」』 1989
広島県立歴史民俗資料館『平成7年度特別企画展 古墳誕生の謎をさぐる-特殊器台からはにわへ-』 1995
島根県立古代出雲歴史博物館『島根県立古代出雲歴史博物館企画展「弥生王墓誕生 出雲に王が誕生したとき」』 2007
加藤光臣 「(「考古学から見た郷土の歴史」講座報告) 矢谷弥生墳墓群(国史跡「矢谷古墳」)の歴史的意義 芸備友の会『芸備』第39集 2011所収
広島県立歴史民俗資料館『平成24年度秋の特別企画展 中国山地の原始・古代～その時、山は輝いていた～』 2012

●史跡 寺町廃寺跡

広島県立歴史民俗資料館『平成10年度考古企画展 ひろしまの古代寺院 寺町廃寺と水切り瓦』 1998
平成10年度考古企画展記念座談会「寺町廃寺は三谷寺か」 広島県立歴史民俗資料館『広島県立歴史民俗資料館 研究紀要』第2集 1999所収
広島県立歴史民俗資料館『平成22年度春の企画展 広島・古代史発掘-安芸・備後の成立へ-』 2010

●史跡 浄楽寺・七ツ塚古墳群

植田千佳穂 「(報告)史跡浄楽寺・七ツ塚古墳群測量調査報告」 広島県立歴史民俗資料館『広島県立歴史民俗資料館 研究紀要』第4集 2003所収
植田千佳穂 「史跡浄楽寺・七ツ塚古墳群測量調査報告Ⅱ」 広島県立歴史民俗資料館『広島県立歴史民俗資料館 研究紀要』第5集 2005所収
古瀬清秀 「三次地域における前半期古墳」 芸備友の会『芸備』第33集 2006所収

その他全般

『三次市史Ⅰ』原始・古代編 抜刷 2004
『三次市史Ⅱ』遺跡・山城編 抜刷 2004
広島県立歴史民俗資料館『開館30周年記念 平成21年度秋の特別企画展 古代出雲と吉備の名宝-青銅と鉄と玉と-』 2009

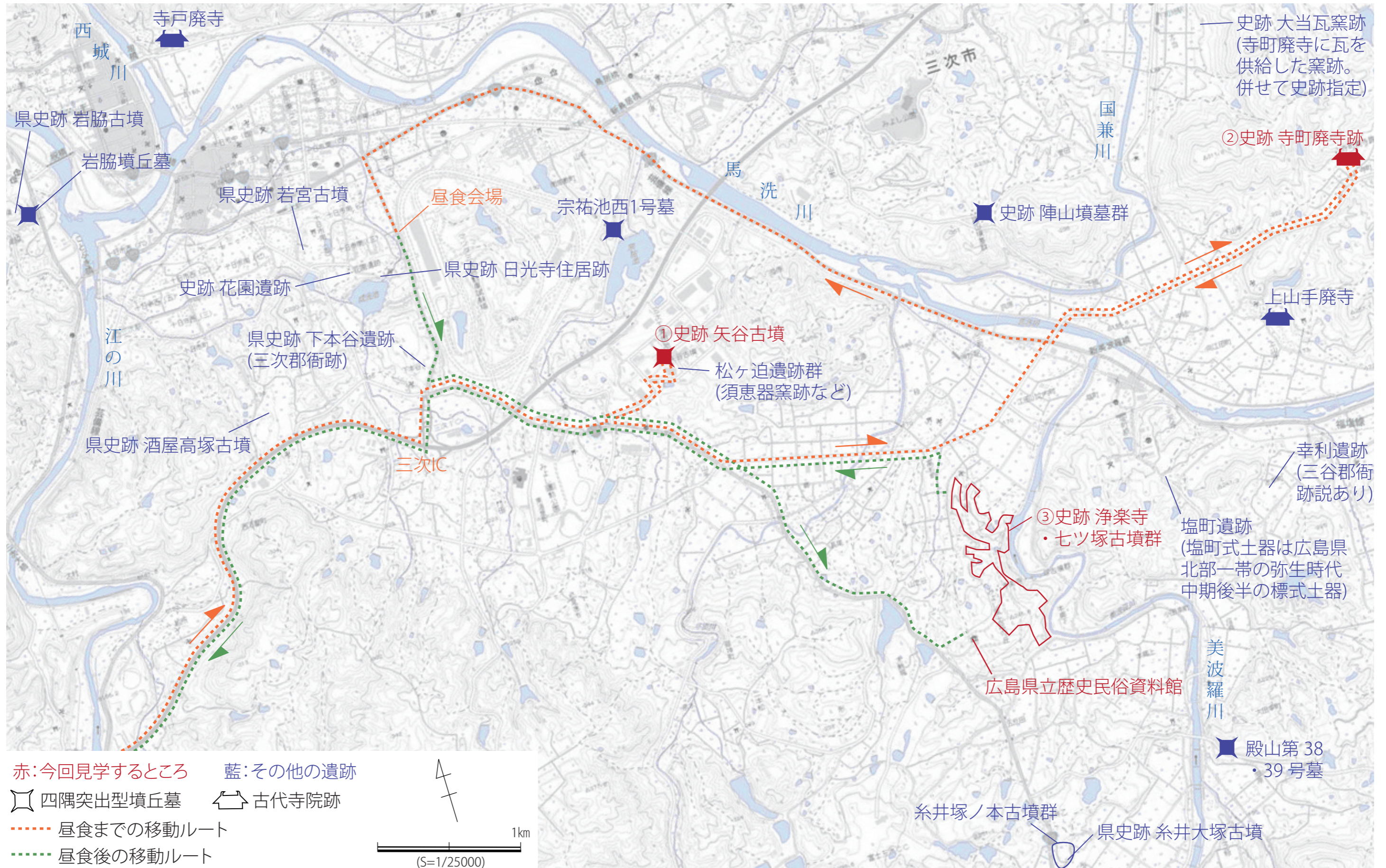
他、関係各遺跡の発掘調査報告書等。

メモ

古瀬教授と行く 広島歴史探訪フィールドワーク「遺跡の小宇宙—三次」行程表

内 容	着時間	発時間	備 考
JR広島駅		9:00	
移動			広島IC～三次IC経由
史跡 矢谷古墳 (三次市東酒屋町)	10:30	11:10	
移動			
史跡 寺町廃寺跡 (三次市向江田町)	11:20	12:00	
移動			
昼食	12:10	12:50	
移動			
広島県立歴史民俗資料館 (三次市小田幸町)	13:00	14:10	常設展ならびに秋の特別企画展 「中国山地の原始・古代 ～そ の時、山は輝いていた～」見学
休憩・移動			
史跡 浄楽寺・七ツ塚古墳群 (三次市高杉町)	14:30	15:30	
移動			三次IC～広島IC経由
JR広島駅	17:00		

「遺跡の小宇宙—三次」移動ルートと周辺の遺跡位置図 (掲載した遺跡はごく一部のみです)

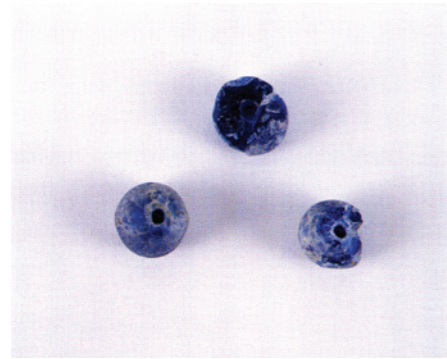


史跡 矢谷古墳

吉備と出雲のはざまに造られた四隅突出型墳丘墓

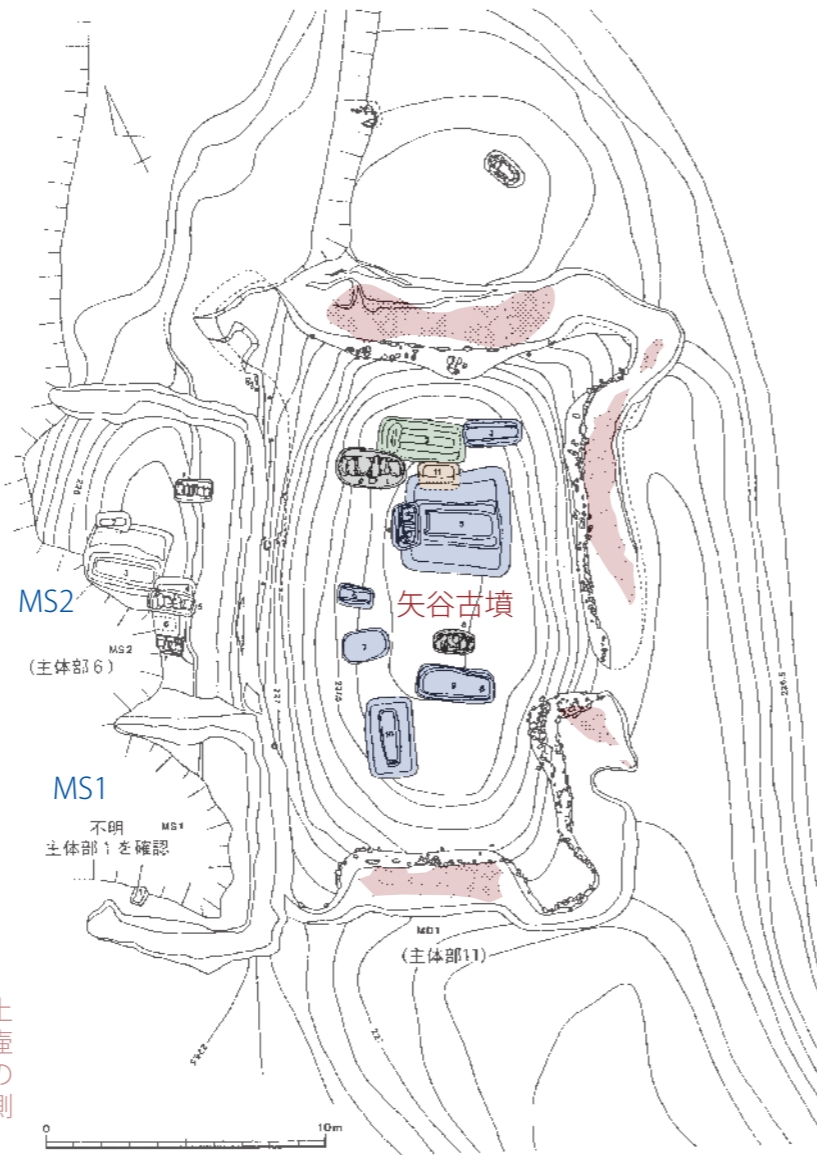


矢谷古墳全景(南から)

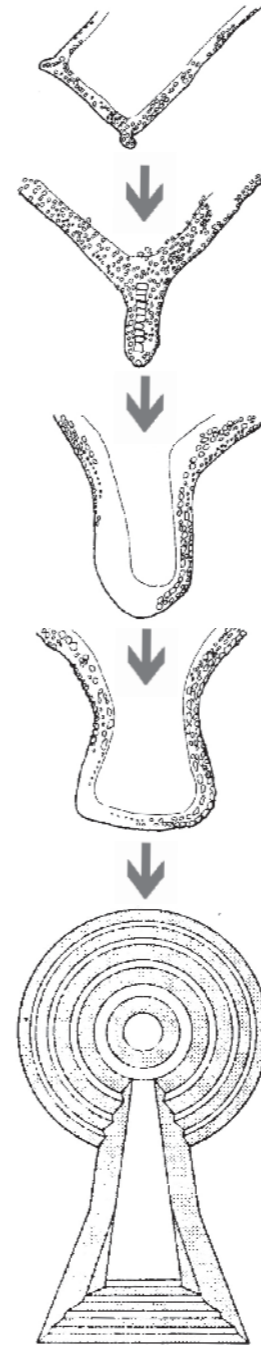


MS2から出土したローマ帝国領内で生産されたガラスを素材とした可能性があるガラス小玉

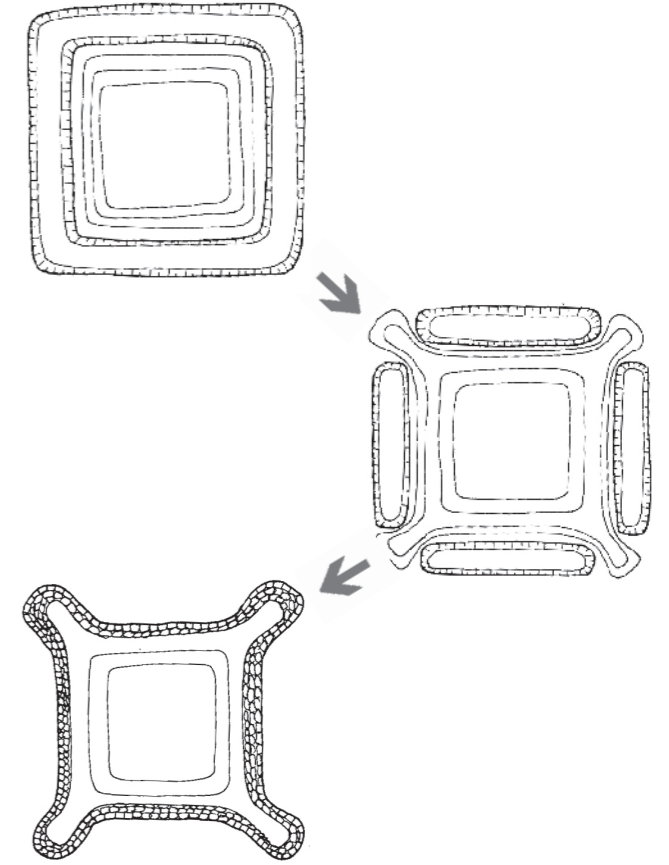
- 推定組合式木棺墓
- 推定割竹形木棺墓
- 箱形石棺墓
- 土こう
- 周溝内で土器が出土した範囲 ※特殊壺・特殊器台は墳丘の北東半の北側と東側の溝内から出土



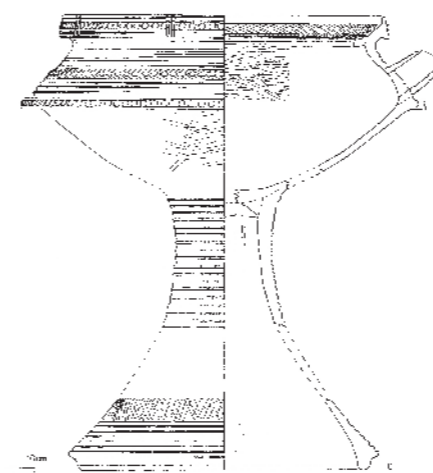
矢谷古墳の平面形状



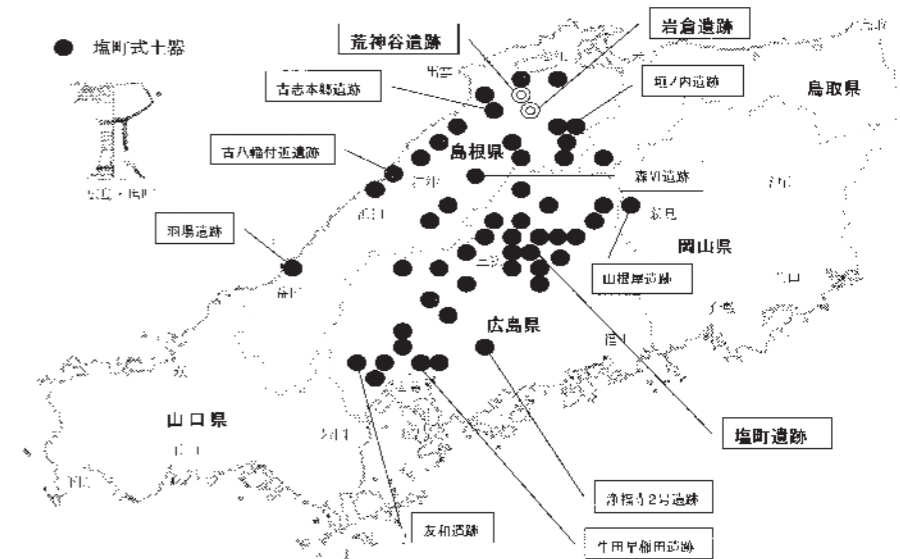
弥生時代の墳墓→前方後円墳への形態変化



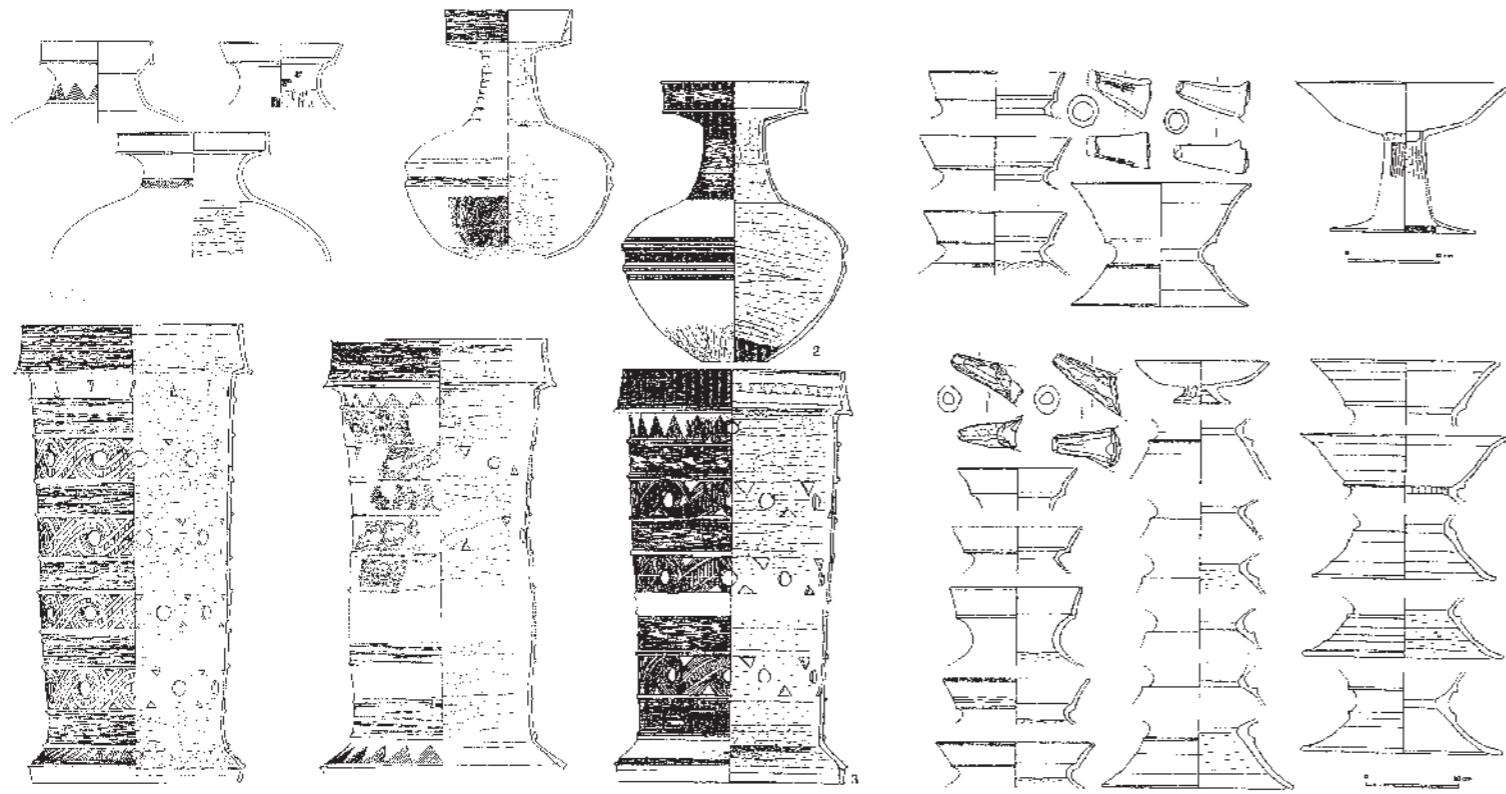
四隅突出型墳丘墓の分布



殿山38号墓出土の塩町式土器(注口付大型脚付鉢)



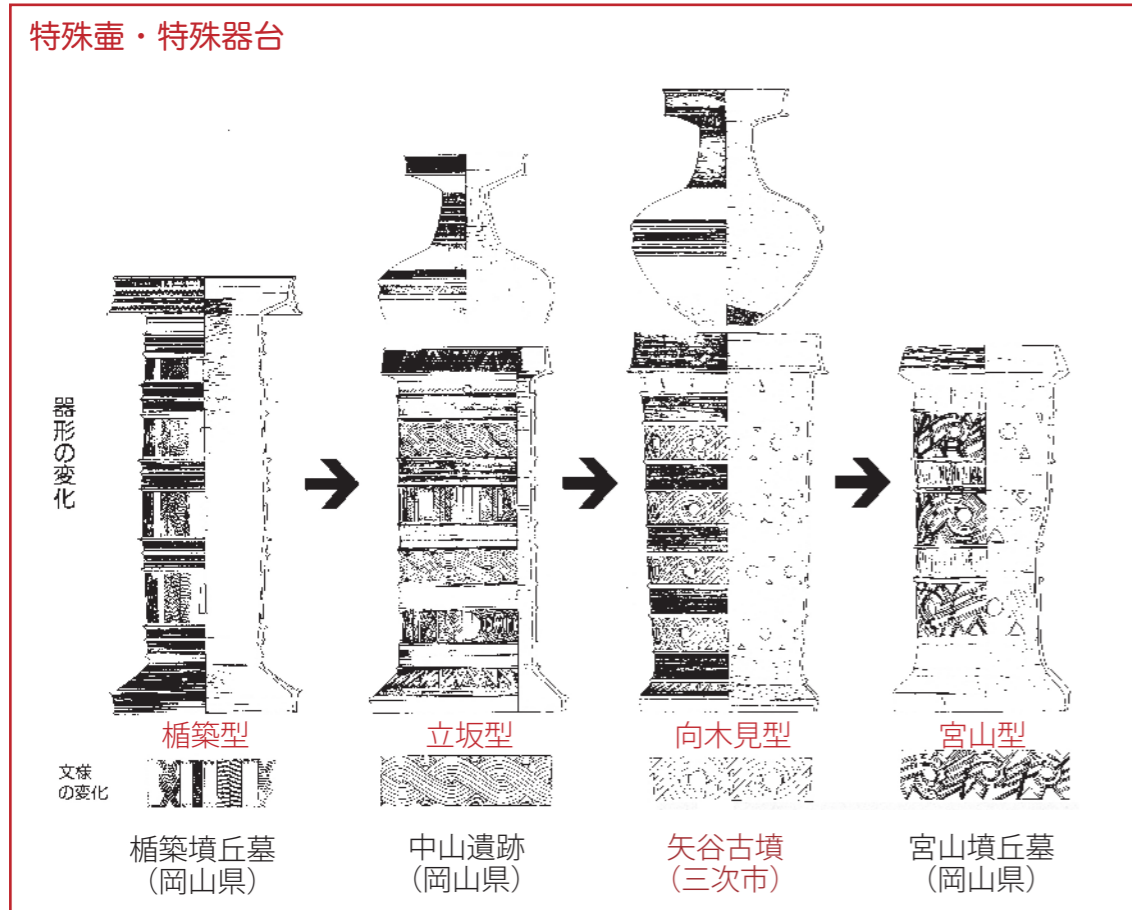
塩町式土器の分布



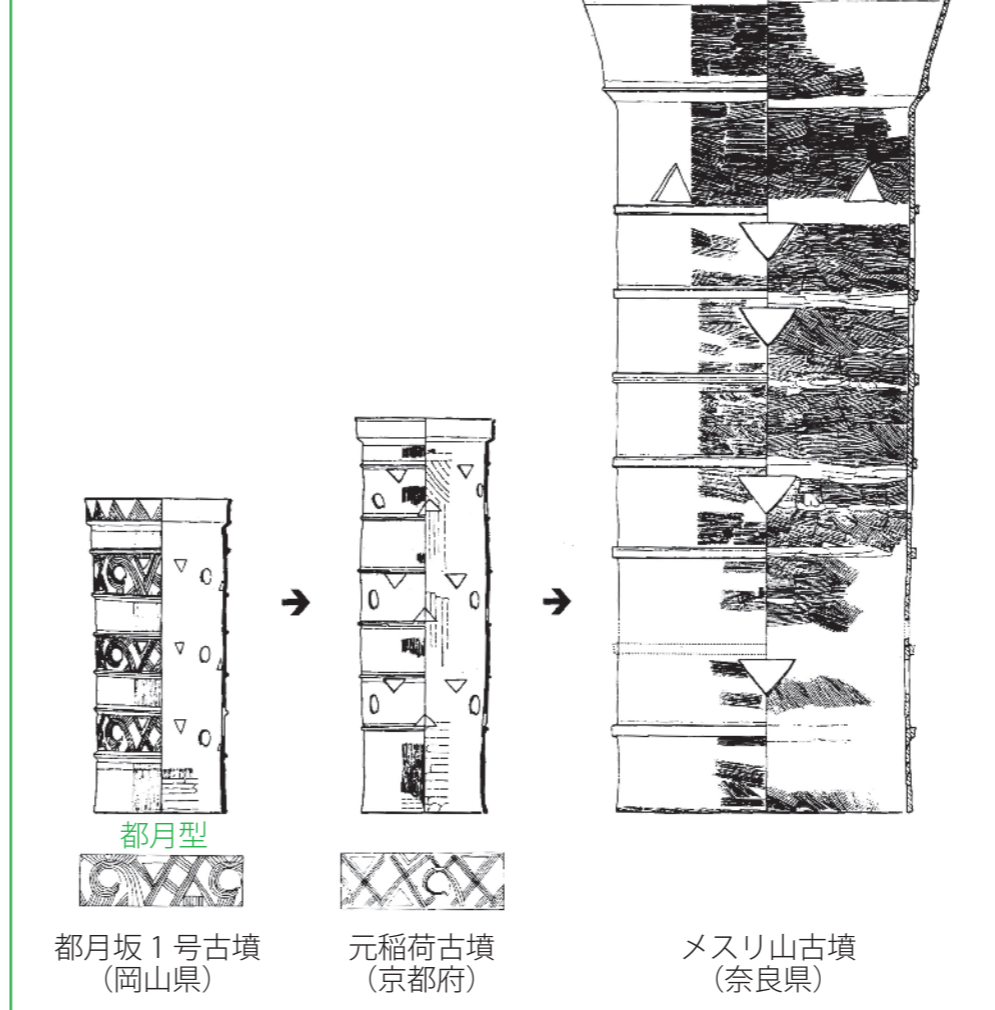
矢谷古墳出土の特殊壺・特殊器台・鼓形器台などの土器(一部)



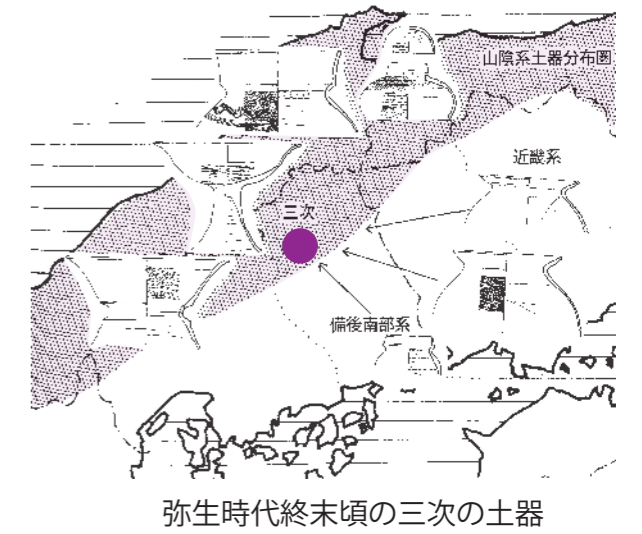
特殊壺・特殊器台の分布



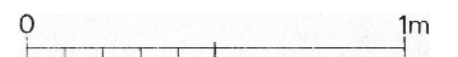
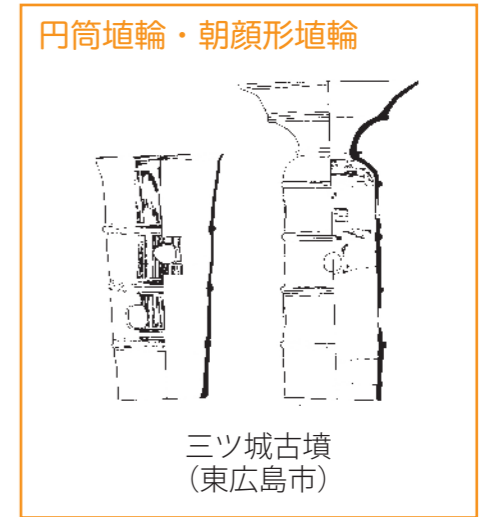
特殊器台形埴輪



特殊壺・特殊器台→埴輪への形態変化



弥生時代終末頃の三次の土器



史跡 寺町廃寺跡

『日本霊異記』に記された古代寺院「三谷寺」を探る

金堂…本尊を安置する仏殿
 建物：桁行五間、梁間四間の四面庇入母屋造りと推定。
 基壇：東西約15.7m、南北約13.4m、現存高約0.8m。
 外装はせん。南北に階段か。

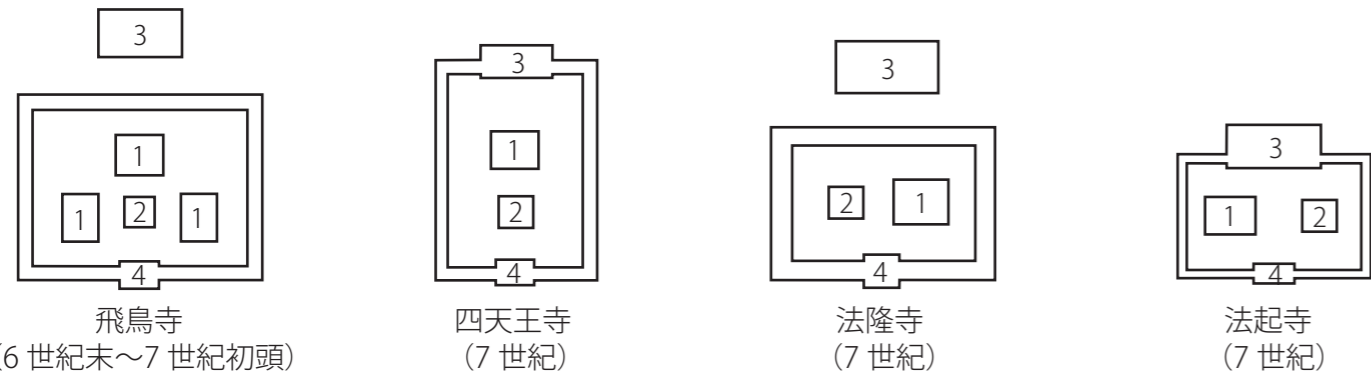
講堂…僧侶が説教・講義を開く堂
 建物：桁行七間、梁間四間の二面庇切妻造りと推定。
 基壇：東西約25.1m、南北約14.7m、現存高約0.7m。
 外装はせん。南に階段3か所あり。



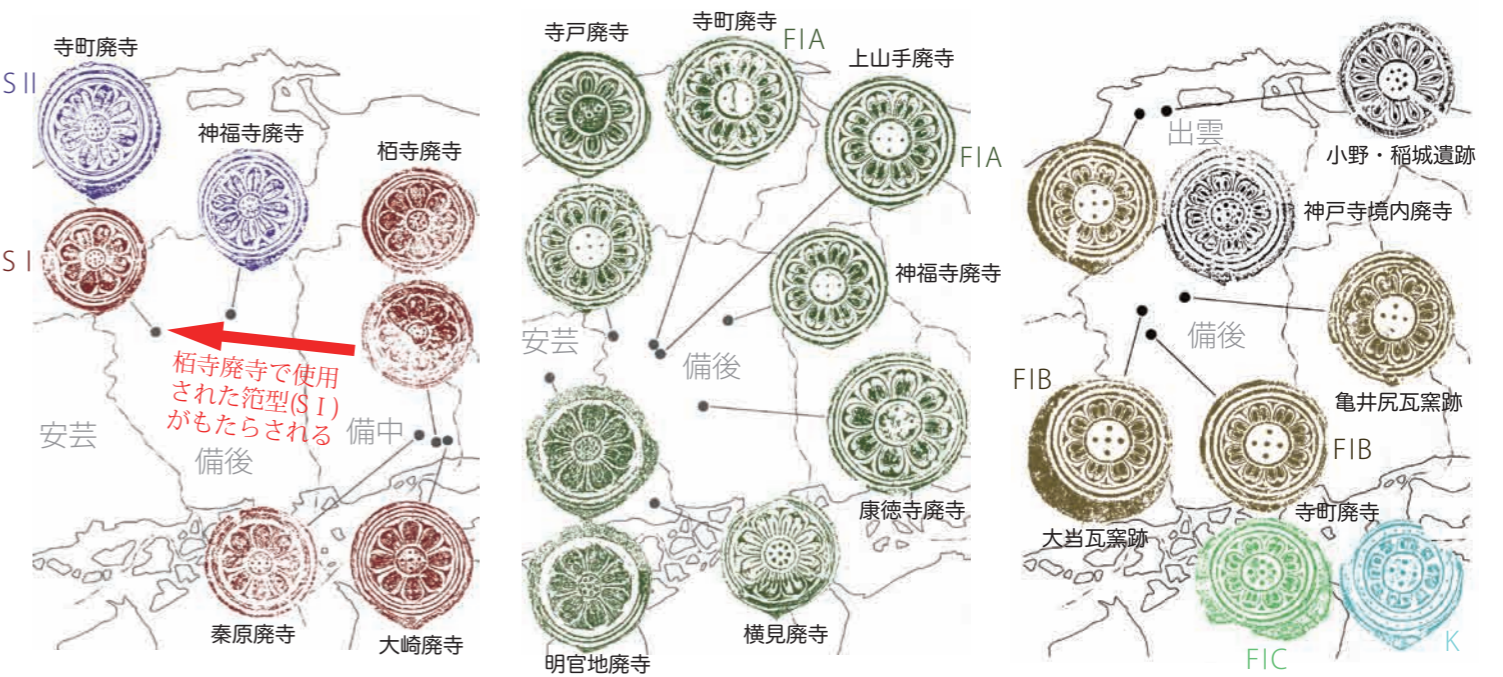
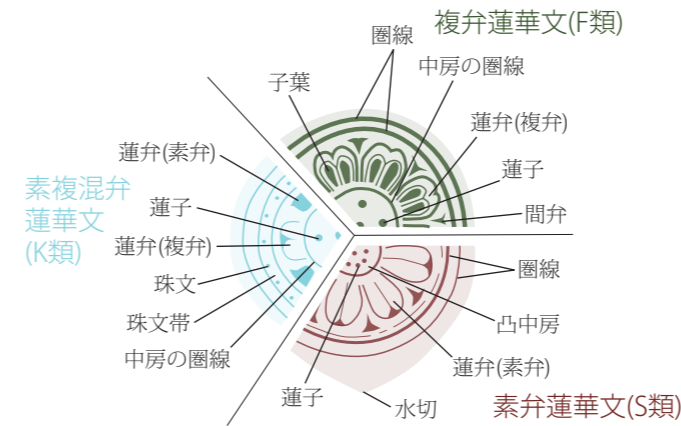
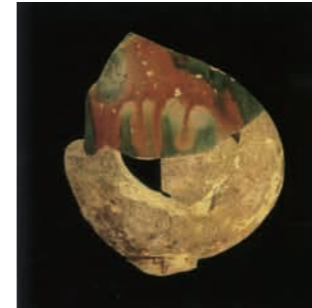
回廊…各建物を結ぶ廊下
 建物：外側が連子窓付きの壁、内側が通路の単廊と推定。
 基壇：幅約4.6m、東西約42m。
 外縁に幅60cmの犬走り状テラス。

塔…聖遺物をまつる建築物
 建物：初層が一辺7.2m、軒出2.1m以上の三重塔と推定。
 基壇：一辺約11.1m、心礎上面までの高さ約1.5m。
 外装はせん。北に階段あり、南にも階段か。
 心礎：平面1.9×1.1m前後、厚さ1m以上の長方形。中央に径約44cm、深さ21~22cmのほぞ穴。

発掘調査に基づいて復元された寺町廃寺跡の伽藍配置



様々な伽藍配置(1は金堂、2は塔、3は講堂、4は中門)



S I : 栢寺廃寺で使用された范型で作成。
 S II : S I をモデルに作成。寺町廃寺跡で出土した軒丸瓦の50%を占める。

FIA : 当初は上山手廃寺の創建瓦。

FIB : 8世紀中頃の補修瓦。
 FIC : 8世紀末頃の補修瓦。
 K : 奈良~平安時代前半の補修瓦。

寺町廃寺跡出土の軒丸瓦(水切り瓦)の文様の変遷と同范・類似の瓦の広がり

日本霊異記上巻第七「亀の命を贖ひて放生し現報を得て亀に助けられえし縁」より
 禪師弘濟(ぐさい・こうさい)は百濟の国の人なりき。百濟の乱れし時に当たりて、備後の国三谷の郡の大領の先祖、百濟を救はむが為に軍旅に遣はされき。時に誓願を發して言さく「若し平らかに還り卒はらば、諸の神祇の為に伽藍を造り立て、多に諸の寺を起しまつらむ」とまうす。公、遂に災難を免れき。即ち、禪師を請けて、相共に還り来る。三谷寺は、其の禪師の造り立てまつりし所の伽藍なり。(以下略)



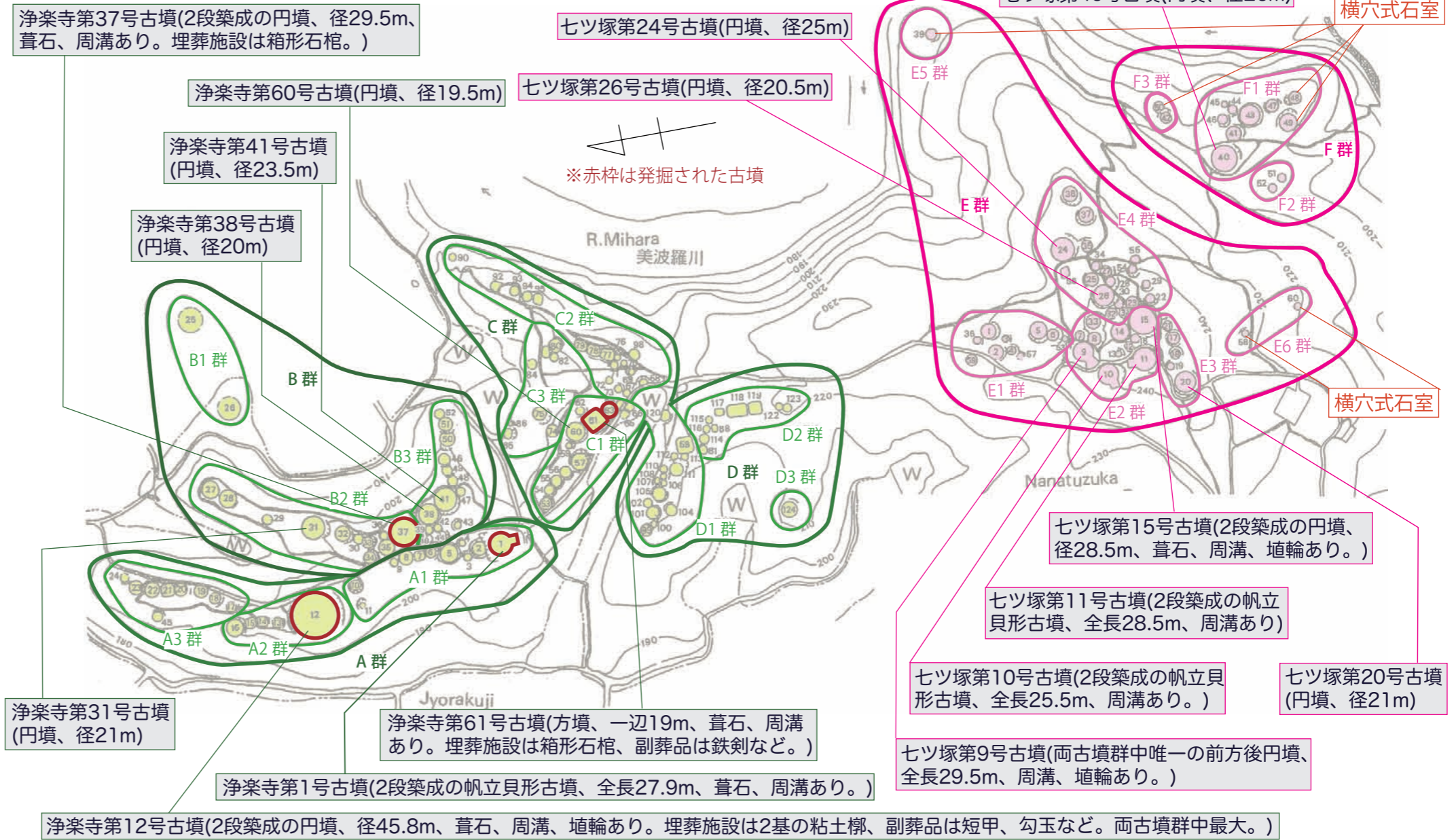
史跡 浄楽寺・七ツ塚古墳群

総計176基がひしめく古墳の丘

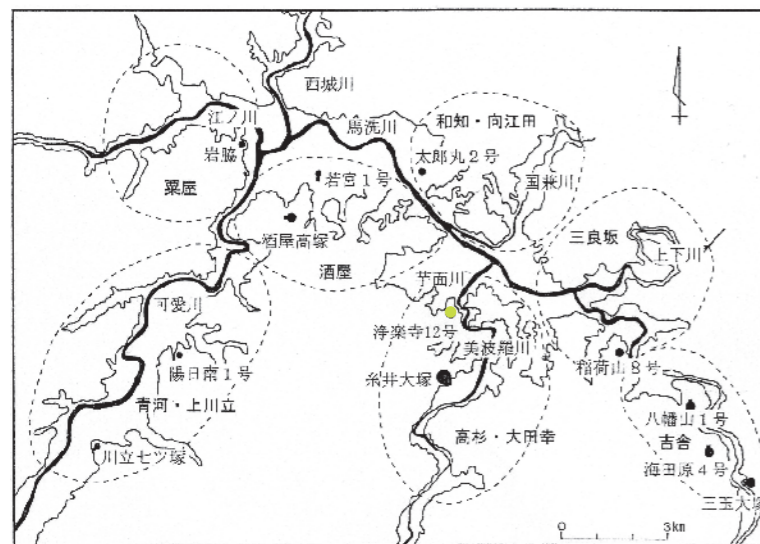
七ツ塚古墳群 60基 (前方後円墳1基、帆立貝形古墳2基、方墳2基、円墳55基)



4 1km
史跡浄楽寺・七ツ塚古墳群周辺の地形図



浄楽寺古墳群 116基 (帆立貝形古墳1基、方墳17基、円墳98基) 500m



三次盆地の小地域と古墳分布図

	青河・上川立	酒屋	高杉・大田幸	和知・向江田	三良坂	吉舎	庄原
前II期		岩脇 若宮		四拾貫 太郎丸2号			
前III期	野ヶ谷北	大久保5号	浄楽寺12号	四拾貫小原1号			
前IV期	久々原3号	6号	糸井大塚	上四拾貫 6号			
後I期		酒屋高塚	七ツ塚9号	14号			
後II期		天狗塚1号	4号				
後III期			7号				
後IV期			8号				

三次盆地の古墳の編年



三次最古級の古墳、岩脇古墳



墳丘の全長65mの帆立貝形古墳、糸井大塚古墳